

# 「ことばの教育」パイロット校事業 報告書

学校名	江田島市立中町小学校
校長名	大野美恵子
所在地	江田島市能美町中町2279
H P	http://www.edc.etajima.hiroshima.jp/~nakamachi-sho/
学級数	8
タイプ	I                      ②

## 1 研究の概要

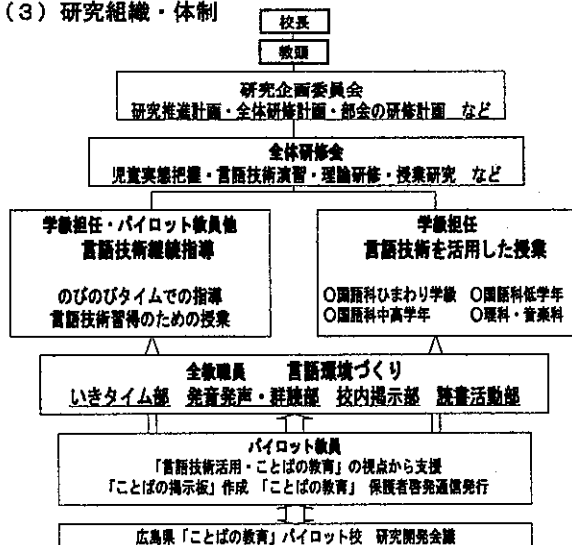
### (1) 研究主題

自分の考えを持ち、生き生きと伝えあう児童の育成  
～「言語技術」の指導と活用による論理的思考力と  
コミュニケーション能力の育成～

### (2) 研究のねらい

教師自身が「言語技術」とその指導法を習得し、「言語技術」の指導と授業での活用を行うことにより、場と目的に応じて「言語技術」を使って論理的思考ができ、お互いの考えを聞き合って豊かにコミュニケーションのできる児童をめざす。

### (3) 研究組織・体制



## 2 2年間の取組みの概要

### (1) 研究仮説

#### 研究仮説1

言語技術 受け答えをする技術 (問答ゲーム・紙上問答・スピーチ感想交流) 要点をまとめる技術 (再話)



児童は、相手や目的に応じて、必要な情報をつかみ、要点をまとめ構成を考えて表現する技能 (「話す」・「聞く」・「書く」・「読む」) が習得できるであろう。

#### 研究仮説2

言語技術 受け答えをする技術 (問答ゲーム)、要点をまとめる技術 (再話)、構成を考える技術 (物語の構造分析)、様々な角度から物事を見る技術 (視点を変える)、情報を正しく伝える技術 (描写・説明)、情報を的確に分析する技術 (絵・テキストの分析)



#### 有効に活用した授業

児童は、論理的に考えを進めることができ、教科の目標を達成することができるであろう。また、ひまわり学級在籍児童は、ことばの力を伸ばすであろう。

### (2) 研究内容

#### ①「言語技術」の継続指導

- のびのびタイムでのトレーニング
- 国語科での「言語技術」指導

#### ②「言語技術」を活用した授業づくり

- 「言語技術」を活用することにより論理的思考力を育成し、教科の目標を達成する授業づくり (国語科低・中・高)、(理科4年)、(音楽科5年)
- 「ことば」を育てる授業づくり (ひまわり学級)

### (3) 実践

#### ①「言語技術」の継続指導実践

##### ○ のびのびタイムでのトレーニング

月	火	水	木	金
朝読書	ミニ再話 (聞く、書く)	【朝会】	朝読書	スピーチ・ 感想交流 (聞きあう)
問答ゲーム (聞く、話す)			紙上問答 (書く)	

[学年]

月	火	水	木	金
スピーチ	読み聞かせ	【朝会】	読み聞かせ	テレビ絵本

[ひまわり学級]

##### ○ 国語科での「言語技術」指導

「話す」・「聞く」・「書く」・「読む」技能習得がねらいの国語科の指導に「言語技術」の指導を取り入れる。

#### ②「言語技術」を活用した授業づくり実践

- 論理的思考力を育成し、教科の目標を達成する授業づくり (国語科低・中・高)、(理科4年)、(音楽科5年)  
「言語技術」を活用し、個人や集団で論理的に考えを進めて、課題解決をする。集団解決の場では、「問答法による受け答えの技術」を活用し、自分の考えを根

拠に基づいて論証する。また相手の考えとその根拠を聞き取り、自分の考えに反映させ、課題解決に向けて話し合いを行う。課題に対する自分の考えをまとめさせることで本時の目標を達成させる。

○ 「ことば」を育てる授業づくり (ひまわり学級)

「語彙を増やす・意志を伝える・コミュニケーション能力を習得し、のぼす・情報を正しく理解する」ことをめざして、国語(ことばの学習)・音楽(歌う)を中心に取り組む。

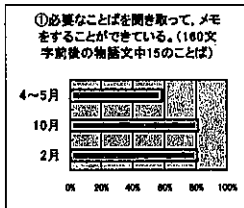
※授業づくりの取組みは、ブロック別実践授業(隔週)と校内授業研究会(各学級年間2回)研究公開によって進める。

3 研究の成果と課題

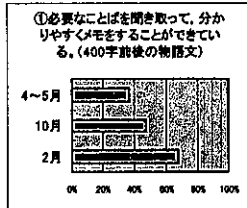
(1) 成果

① 相手や目的に応じて、必要な情報をつかみ、要点をまとめ構成を考えて表現する技能の習得 (仮説1)

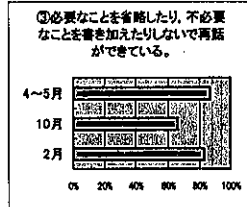
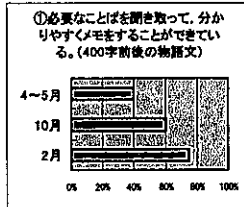
4 年生



5 年生



6 年生



以上のグラフに示されたように、必要な情報(ことば)をつかみ、要点をまとめ(必要なことを省略したり不必要なことを書き加えたりしない)構成を考えて(段落をつかんでいる)表現する技能習得が、70~80%に達した。

② 論理的に考えを進め、教科の目標を達成する児童の姿 (仮説2)

○ 校内授業研究会での提案授業において、どの学年でも「言語技術」、特に「問答の技術」を使って論理的に考えを進めている場面が見取れた。

○ ベネッセ学力調査国語科(読むこと)の達成率が17年度から18年度にかけて学校全体として10ポイント上がった。

○ 理科、音楽科それぞれ4名の抽出児童の「筋道を立てて考え、書くことができる。」評価がいずれも上がった。

③ ことばの力を伸ばした児童の姿 (仮説2・ひまわり学級)

○ B児の昨年から今年にかけての変容

聞く力	レベル10→12 やや長い話を聞いて内容が捉えられる。
話す力	レベル47→58(項目54,55未達成) 伝聞の「そうだ」が使える。
読む力	レベル28→49 漢字が20以上読め、そのさしているものが分かる。(一・二・三…月・火等)
書く力	レベル14→23(項目18,19未達成) 4音節の単語が10以上自分で書ける。
◎昨年より比べ声が出るようになり、音読の声が出るようになった。 [ことばの発達診断表による]	

(2) 課題

① 「言語技術」の継続指導により、「受け答えの技術」の型にはめて、相手にわかるように話したり書いたりできる児童が増えたが、授業場面・生活場面ともに、場と目的に応じて「言語技術」を使いこなして自分の考えを整理し相手に伝えることのできる児童の姿には至っていない。

② ひまわり学級在籍児童に「言語技術」活用を含めたことばの指導を継続することで、話す力・読む力や語彙数を伸ばすことができたが、聞く力を伸ばすことが課題である。

③ 「言語技術」を有効に活用した授業づくりは、取り組み期間が少なく、まだ試行錯誤の状態である。

以上①②③課題を解決するために、今後、児童・教師に次の力をつけていきたい。

●児童に対してつきたい力

- ・相手意識を持って伝えたいという意欲。
- ・自分の考えを組み立てる力(思考力)とそれを書き表す力。
- ・型から抜け出して、豊かに表現する力。
- ・要点や内容を正確に聞き取る力。

●教職員がつけていきたい力

- ・授業力(「言語技術」の有効活用・教材研究・授業構想・指導技術など)
- ・評価力(評価の観点・評価の方法など)